

# 令和5年度 研究の概要

B1グループ

〔班〕 中村小 高尾 奈都子

〔副〕 自由ヶ丘小 川嶋 美唯

宝小 伊藤 暉

## 「ねえねえ、〇〇できたよ！」 ～算数学習を楽しむ子どもの育成～

### 1 研究の内容

私たちの担任する1年生は、どの教科の学習においても目を輝かせて、楽しそうに学習に取り組んでいる。算数科の学習においても、教師の発問に対し、多くの子どもが挙手をして、発表する姿が見られる。また、意欲的に具体物の操作に取り組む姿も見られる。

しかし、子どもたちの中には、授業中にはできていても、練習問題や計算ドリル、復習などでつまづいてしまい、算数に苦手意識をもってしまう子どもの姿が見られる。また、何のためにその活動をしているのかを尋ねても、答えられない子どもも多く見られる。さらに、授業の最後の振り返りで、「ゲームが楽しかった」「ブロックを動かすのが楽しかった」など、その時間に行った活動についての発言が多く聞かれる。これらの姿から、子どもたちは算数学習を楽しんでいるとは言えないのではないかと考えた。これは、子どもたちに課題をつかませるための手立てが不足していたこと、「〇〇できた！」と実感させるための手立てが不足していたことが原因であると考えた。

そこで、導入でこの時間の何が課題なのかをつかませた上で授業を展開し、終末で子どもたちに「〇〇できた！」と実感させることを本研究で行っていく。このような学習を繰り返し行い、「〇〇できた！」という経験を積み重ねることによって、算数学習を楽しむ子どもが育成できるのではないかと考えた。そのために、【課題をつかませるための工夫】と【「〇〇できた！」と実感させるための工夫】で手立てを講じて、研究を進めていく。

### 2 手立て

#### 手立て① 【課題をつかませるための工夫】

- 子どもに「どうして?」「なんで?」と感じさせる問題の提示や発問を行うことで、どうしてできないのだろうと考えさせ、本時のめあてにつながる問いをもたせ、本時の課題をつかむことができるようにする。

#### 手立て② 【「〇〇できた！」と実感させるための工夫】

手立て②では、様々な「〇〇できた！」という子どもの姿に迫っていく。

- 問題解決後に、誤答を提示したり、ゆさぶる発問を行ったりすることで、再思考を促し、本時の大切な考えに気付かせ、「〇〇が大切だと分かった！」と実感することができるようにする。
- 問題解決後に、「どうして〇〇したの?」と発問し、立式や答えの根拠を考えさせ、ブロックを操作させたり、話型を使って説明させたりすることで、「友達に説明することができた！」と実感することができるようにする。
- 子どもたちの思考過程やその時の思い（「困った」「できない」「分かった」「できた」など）を板書に残し、それらを振り返らせる発問をすることで、「困ったことが解決できた！」と実感することができるようにする。